

資 料

1	学校安全計画例	4 0
2	避難訓練の指導例	5 2
3	地震・津波への心得	6 1
4	緊急地震速報（警報）について	6 2
5	防災教育視聴覚教材等	6 4
6	防災教育体験学習の場	7 2
7	徳島県に残る災害に関する書籍	7 3
8	徳島県に残る地震・津波碑	7 5
9	「釜石の奇跡」に学ぶ	9 7
10	徳島県の地勢，地質，気象	1 0 0
11	市町村及び消防本部連絡先一覧表	1 0 2

1 学校安全計画例

学校安全計画例(小学校)

◎・・・単位時間程度の指導 ●・・・短い時間の指導

項目	月	4	5	6	7・8	9
月の重点		通学路を正しく歩こう	安全に休み時間を過ごそう	梅雨時の安全な生活をしよう	自転車のきまりを守ろう	けがをしないように運動をしよう
道徳の時間		4-(1) 規則尊重、公德心	3-(1) 生命尊重	2-(2) 思いやり・親切	1-(2) 勤勉・努力	1-(4) 誠実・明朗
安全 全 学 習	生活	・通学路の安全指導 ・地域探検時の交通安全指導 ・道具の正しい使い方の指導	・正しい動物の扱い方、飼育の仕方等の指導 ・スコップ等の安全な使い方の指導	・公共交通機関等の安全な乗り方の指導 ・野外活動時の安全指導	・通学路の安全指導 ・スズメバチ・毒蛇等その対応への指導	・はさみ・カッター等の安全な使い方の指導
	理科	・野外観察の交通安全 ・虫めがね、移植ごての使い方	・カバーガラス、スライドガラス、フラスコの使い方	・スコップ、ナイフの使い方	・夜間観察の安全 ・試験管、ビーカーの使い方	・観察中の安全 ・フラスコ、ガラス管の使い方
	図工	・はさみ、カッター、ナイフ、接着剤の安全な使い方	・写生場所の安全 ・絵の具、筆、水入れの使い方	・のこぎり、きり、金槌、釘抜き等の使い方	・木槌、ゴム、糸のこぎり、ニスの使い方	・作品の安全な取扱い
	家庭 ※安全指導の実施時期は、各校の年間指導計画によって前後する。 ※調理において生の魚や肉は用いない。また、卵は加熱調理する。	・エプロン・三角巾等の服装、手指を十分に洗う等の指導 ○家庭科室の用具等の配置や、熱源・用具・機械等の管理と点検の実施や注意喚起の掲示	・家庭から持参した食品の保管に関する指導 ・こんろや調理器具の取扱いの指導 ・調理器具の余熱や熱湯に配慮した取扱いの指導 ○家庭から持参させた食品の管理と安全確認	・食器、まな板、ふきん等の調理用具の衛生的な洗浄と乾燥、保管の指導・安全、衛生、熱源に留意した調理台の整理・整頓の指導 ○洗剤類の誤用防止に配慮した保管	・針類、はさみ類等の用具の安全な保管や取扱いの指導 ○はさみの本数を確認した安全な保管	・アイロン等の用具の安全な保管や火傷や電源にも留意した取扱いの指導 ○使用後のアイロンの温度に配慮した収納、保管
	体育	・固定施設の使い方 ・運動する場の安全確保	・集団演技、行動時の安全	・水泳前の健康観察 ・水泳時の安全		・鉄棒運動の安全
	総合的な学習の時間	「○○大好き～町たんけん」(3年)「交通安全ポスターづくり」(4年)				
安全 全 活 動 指 導	低学年	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な給食配膳 ●子どもの110番の家の場所	●休み時間の約束 ◎防犯避難訓練への参加の仕方 ●遠足時の安全 ●運動時の約束	●雨天時の約束 ◎プールの約束 ●誘拐から身を守る	●夏休みの約束 ◎自転車乗車時の約束 ●落雷の危険	◎校庭や屋上の使い方のきまり ●運動時の約束
	中学年	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な清掃活動 ◎誘拐の起こる場所	●休み時間の安全 ◎防犯避難訓練への積極的な参加 ●遠足時の安全 ●運動時の約束 ◎防犯教室(3年生)	●雨天時の安全な過ごし方 ◎安全なプールの利用の仕方 ●防犯にかかわる人たち	●夏休みの安全な過ごし方 ●自転車乗車時のきまり ●落雷の危険	◎校庭や屋上の使い方のきまり ●運動時の安全な服装
	高学年	●通学路の確認 ◎安全な登下校 ●安全な委員会活動 ●交通事故から身を守る ◎身の周りの犯罪	●休み時間の事故とけが ◎防犯避難訓練の意義 ●交通機関利用時の安全 ●運動時の事故とけが	●雨天時の事故とけが ◎救急法と着衣泳 ●自分自身で身を守る ◎防犯教室(4、5、6年生)	●夏休みの事故と防止策 ●自転車の点検と整備の仕方 ●落雷の危険	◎校庭や屋上で起こる事故の防止策 ●運動時の事故とけが
	児童会活動等	・新1年生を迎える会 ・クラブ活動・委員会活動開始			・児童集会	
	主な学校行事など	・入学式 ・健康診断 ・交通安全運動	・運動会・遠足 ・防犯避難訓練	・自然教室 ・プール開き		・防災引き取り訓練 ・交通安全運動 ・防災避難訓練(地震)
安全管理	対人管理	・安全な通学の仕方 ・固定施設遊具の安全な使い方	・安全のきまりの設定	・プールでの安全のきまりの確認 ・電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	・自転車乗車時のきまり、点検・整備 ・校舎内での安全な過ごし方	・校庭や屋上で安全な過ごし方
	対物管理	・通学路の安全確認 ・安全点検年間計画の確認(点検方法等研修含む)	・諸設備の点検及び整備	・学校環境の安全点検及び整備	・夏季休業前や夏季休業中の校舎内外の点検	・校庭や屋上で安全な過ごし方屋上など校舎外の整備
学校安全に関する組織活動		・登下校時、春の交通安全運動期間の教職員・保護者の街頭指導	・校外における児童の安全行動把握、情報交換	・地域ぐるみの学校安全推進委員会 ・学区危険箇所点検	・地域パトロール	・登下校時、秋の交通安全運動期間の教職員・保護者の街頭指導地域パトロール
	研修	・道具等の安全点検方法等に関する研修 ・通学路の状況と安全指導に関する研修	・熱中症予防に関する研修	・防犯に関する研修(緊急時の校内連絡体制、マニュアルの点検) ・心肺蘇生法(AED)研修(PTA含む)		・防災に関する研修(訓練時)

学校安全計画例(小学校)

10	11	12	1	2	3
乗り物の乗り降りに気をつけよう	けがをしないように運動をしよう	安全な冬の生活をしよう	災害から身を守ろう	道路標識を守ろう	安全な生活ができるようにしよう
2-(2) 思いやり・親切	4-(6) 家族愛	1-(2) 勇気	1-(2) 勤勉・努力	1-(1) 節度、自律	4-(6) 愛校心
・段ボールカッター、ホットボンド、きり等の使い方の指導 ・野外活動時の安全指導	・公共施設見学時の安全指導 ・道具の安全な使い方の指導	・道具の安全な使い方の指導	・昔の遊びでの安全な遊び方の指導	・道具の安全な使い方の指導	・道具の安全な使い方の指導
・太陽観察時の注意	・ポリ袋、ゴム風船の使い方 ・アルコールランプの使い方	・鏡、凸レンズ、ガラス器具の使い方	・スコープ、ナイフの使い方	・夜間観察の安全 ・試験管、ピーカーの使い方	・観察中の安全 ・フラスコ、ガラス管の使い方
・彫刻刀の管理の仕方と使い方	・水性ニスの取扱い方、針金・パンチの使い方	・竹ひご、細木、小刀の使い方	・のこぎり、きり、金槌、釘抜き等の使い方	・木槌、ゴム、糸のこぎり、ニスの使い方	・作品の安全な取扱い
・包丁の安全で衛生的な取扱いの指導 ○包丁の本数を確認した安全な保管	・食器の安全で衛生的な取扱いの指導	・ミシン等の用具の安全な保管や、移動や出し入れ、電源にも配慮した取扱いの指導 ○作業動線に配慮した家庭科室の学習環境の整備	・暖房の安全な扱い方の指導	・針類、はさみ類、ミシン等の用具を取り扱う際の危険防止や安全点検の確認の習慣化の指導	○家庭科室の用具等の配置や、熱源・用具・機械等の管理と点検の実施
・用具操作の安全	・けがの防止(保健)	・ボール運動時の安全	・持久走時の安全	・跳躍運動の安全	・器械運動の安全

「安全マップづくり」(5年) 「社会の一員として活動しよう」(6年)

◎乗り物の安全な乗り降りの仕方 ●廊下の安全な歩行の仕方	◎誘拐防止教室 ●安全な登下校	◎安全な服装 ◎冬休みの安全な過ごし方	◎「おかしもの」約束 ●危ないものを見つけたとき	◎身近な道路標識 ●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがをしないために
◎車内での安全な過ごし方 ●校庭・遊具の安全な遊び方	◎校庭や屋上の使い方のきまり ●安全な登下校	◎冬休みの安全な過ごし方 ●凍結路の安全な歩き方	◎「おかしもの」約束 ●安全な身支度	◎自転車に関係のある道路標識 ●暖房器具の安全な使い方	●1年間の反省 ◎けがをしやすい時間と場所
◎乗車時の事故とけが ●校庭・遊具の安全点検	◎校庭や屋上で起こる事故の防止策 ●安全な登下校	◎冬休み中の事故やけが ●凍結路の安全な歩き方	◎災害時の携行品 ●安全な身支度、衣服の調節	◎交通ルール ●暖房器具の安全な使用	●1年間の反省 ◎けがの種類と応急処置
		・児童集会			
・地区別運動会 ・収穫祭と子ども祭り	・修学旅行 ・防災避難訓練(火災)			・学校安全集会	・卒業式
・校外学習時の道路の歩き方 ・電車・バスの安全な待ち方及び乗降の仕方	・安全な登下校	・凍結路や雪道の歩き方	・災害時の身の安全の守り方	・道路標識の種類と意味	・1年間の評価と反省
・駅・バス停留周辺の安全確認	・通学路の確認	・校内危険箇所の点検	・防災用具の点検・整備	・学区内の安全施設の確認	・通学路の安全確認 ・安全点検の評価・反省
・学校安全委員会(学校保健委員会)	・地域教育会議	・年末年始の交通安全運動の啓発	・地域パトロール	・学校安全委員会(学校保健委員会)	・地域ぐるみの学校安全推進委員会
	・防災に関する研修(訓練時)	・応急手当(止血等)			・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

項目	月	4	5	6	7・8	9	
月の重点		安全な登下校をしよう	体育祭を安全にやりぬこう	梅雨期を安全に過ごそう	健康と安全について気をつけよう	災害に備えた生活をしよう	
道徳の時間		3-(1) 生命尊重	4-(4) 集団の意義	1-(3) 自主自律	4-(1) 法の遵守	4-(5) 奉仕	
安全	社会	・世界と比べた日本の地域的特色(自然災害と防災への努力)(2年)					
	理科	・理科室における一般的注意 ・実験時の危険防止とふさわしい服装	・薬品やガラス器具の使い方 ・加熱器具の使い方 ・備品の点検整備		薬品検査 ・自由研究の実験上の注意	・力学関係の実験器具の使い方	
	美術	・美術室における一般的注意	・備品の点検整備	・彫刻刀の正しい使い方	・ニードル等の道具の使用の注意 ・備品点検	・版画用プレス機の使い方の注意	
	体育分野	・集団行動様式の徹底 ・施設や用具の使い方	・自己の体力を知る ・集団行動と協力性 ・備品の点検整備 ・新体力テストの行いと測定の仕方	・水泳の事故防止について(自己健康管理)		・陸上運動の適切な場所の使い方と測定の仕方	
	保健分野	・心身の機能の発達と心の健康(1年)	・傷害の防止(2年)		・生活行動・生活習慣と健康(3年)	・自然災害(全学年)	
	技術・家庭 ※「栽培」を行う場合は、農業の扱いに注意する。 ※安全指導の実施時期は、各校の年間指導計画によって前後する。	・施設・設備の管理と点検の実施 ・作業の安全と事故防止の指導	・材料の適切な保管と用具の手入れの実施 ・刃物の正しい取り扱い方の指導	・工具や機器の手入れと安全な使用の指導 ・農業の適切な使用と取り扱いの指導	・備品の管理と点検の実施	・機械加工での安全な作業の進め方の指導	
総合的な学習の時間	〈活動例〉「我が町の交通安全対策調べ」「学区安全マップづくり」「災害の町づくり」など						
教育	安全活動指導	第1学年	●中学生になって ●通学路の確認 ●部活動での安全 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	●体育祭の取組と安全 ◎災害時の安全な避難の仕方の日常の備え ●清掃方法を確認しよう	●雨天時の校舎内での過ごし方 ●校内での事故と安全な生活 ◎水泳、水の事故と安全	●落雷の危険や風水害 ●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全(防犯)	◎地震の危険 ●市総合体育大会と安全
		第2学年	●通学路の確認 ●自分でできる安全点検 ◎犯罪被害の防止や通報の仕方	●体育祭の取組と安全 ◎交通事故防止を考えよう	●雨天時の校舎内での過ごし方 ◎水泳、水の事故と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全(防犯) ●中体連大会と安全	◎地震の危険と避難 ●市総合体育大会と安全
		第3学年	◎犯罪被害の防止や通報の仕方 ●登下校の安全 ●自分でできる安全点検	●体育祭準備 ◎心の安定と事故	◎水泳、水の事故と安全 ◎修学旅行と安全	●自分の健康チェック ◎夏休みの生活設計と安全(防犯) ●中体連大会と安全	◎地震の危険と避難 ●市総合体育大会と安全
	生徒会活動	・部活動紹介	・体育祭 ・校内安全点検活動	・生徒会総会 ・中体連壮行会	・球技大会		
主な学校行事など	・入学式 ・健康診断 ・学校説明会 ・交通安全運動	・新体力テスト ・体育祭 ・防犯避難訓練	・修学旅行 ・防犯避難訓練(火災) ・心肺蘇生法講習会 ・合唱コンクール	・夏の交通安全運動	・秋の交通安全運動 ・防災避難訓練(地震)		
部活動	・活動ガイダンス ・練習の進め方指導	・部活動保護者会	・熱中症予防指導				
安全管理	対人管理	・通学方法の決定 ・安全のきまりの設定	・身体の安全について及びけがの予防	・校舎内の安全な過ごし方 ・プールにおける安全管理について	・自分でできる点検ポイントについて ・教急体制の見直し ・夏季休業中の部活動での安全と対応	・身体の安全について及びけがの予防	
	対物管理	・通学路の確認 ・安全点検年間計画の確認(点検方法等研修含む)	・運動場など校舎外の整備	・学校環境の安全点検及び整備(階段・廊下・プール)	・夏季休業前や夏季休業中の校舎内外の点検	・諸設備の点検及び整備	
学校安全に関する組織活動(研修含む)	・春の交通安全運動期間の啓発活動 ・教職員・保護者の街頭指導 ・危機管理体制に関する研修	・校外における生徒の安全行動把握、情報交換 ・熱中症予防に関する研修	・地域学校安全委員会(学校保健委員会) ・学区危険箇所点検 ・心肺蘇生法(AED)研修	・地域パトロール ・学校が避難所になった場合の市職員や自主防災組織との話し合い ・防災に関する研修(マニュアルの確認等)	・防災の日 ・秋の交通安全運動の啓発と街頭指導 ・防災に関する研修(避難訓練)		

学校安全計画例(中学校)

10	11	12	1	2	3
交通法規を理解し守ろう	危険を予測し、安全な生活をしよう	自ら健康を維持していこう	事故災害から身を守り適切な行動をしよう	事故の原因について学ぼう	安全な生活ができるようしよう
2-(3) 友情の尊さ	4-(2) 社会連帯	4-(8) 郷土愛	2-(2) 人間愛	3-(3) 生命尊重	4-(6) 社会への奉仕
・日本の諸地域(地域の自然災害に応じた防災対策)(2年)			・身近な地域の調査時の安全(2年)		
・天気の変化 ・日本の気象		・薬品検査 ・理科室と準備室の整備	・地震発生メカニズムと震度 ・火山活動の様式とマグマの性質	・電気器具の使い方	・自然の恵みと災害 ・備品点検、薬品点検(台帳管理)
・小型ナイフの使い方	・打ち出し用具の使い方	・塗装の際の一般的注意	・カッター、はさみ、コンパス等の使用上の注意	・絵の具、用具の保管や管理の指導	・教室での一般的諸注意 ・器具、用具の点検
・競技運動における段階的な練習と適切な補助の仕方	・長距離走における健康状態の把握と個人体力にあったペース配分	・武道における場所、用具の適切な使い方と手入れ(禁じ技など)	・サッカーにおける適切な用具、場所の使い方(ゴールの運搬や固定の仕方等)、ルールやマナーの徹底、ゲームの安全	・バスケットボールにおける適切な用具、場所の使い方、ルールやマナーの徹底、ゲームの安全	・器具用具の点検 ・備品整理
・喫煙、飲酒、薬物乱用と健康(3年)			・感染症の予防(3年)		
・塗装時の換気と事故防止の指導	・電気機器の安全な使用方法の指導	・機器の定期点検の必要性と保守点検の指導	・漏電、感電、加熱及び短絡による事故防止の指導	・はんだづけにおける火傷防止の指導	・備品の管理と点検の実施(台帳管理)
・調理実習における火気、包丁等の調理用具の安全で衛生的な扱いの指導 ○調理実習における火気、包丁、食品などの適切な管理の実施	・エプロンや三角巾の着用と手洗いの励行による清潔・衛生的指導 ○廃棄物や残棄の適切な処理の実施	・ミシンやアイロン等の安全な扱いに関する指導 ○施設・設備、備品の管理と点検の実施	・自然災害を含む家庭内事故防止や災害への備えなどの安全な住まい方の指導	・化学物質、一酸化炭素、カビ、ダニ等の室内空気汚染防止などの指導	○施設・設備、備品の管理と点検の実施(台帳管理)
●文化祭の準備と安全 ◎交通法規の意義と安全	●自分の健康チェック (・持久走大会と安全)	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	●自転車の安全で正しい乗り方 ◎交通事故の加害と被害 ●ボランティア活動の意義の理解と参加	●施設の安全な利用 ◎降雪時の安全 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●球技大会や3年生を送る会での安全
◎部活動の安全とリーダーの役割 ●文化祭の準備と安全	●自分の健康チェック (・持久走大会と安全)	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	◎交通事故の加害と被害 ●ボランティア活動の意義の理解と参加	◎降雪時の安全 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●球技大会や3年生を送る会での安全
◎交通事故の原因と事故の特性	●自分の健康チェック (・持久走大会と安全)	●冬休みの生活設計と安全 ●火気の注意 ◎災害への備えと協力(地域の一員として)	◎交通事故の加害と被害 ●ボランティア活動の意義の理解と参加	◎降雪時の安全 ●けがの発生状況とその防止	●1年間の反省 ●球技大会や3年生を送る会での安全 ●学校、教室環境の整備修繕(奉仕活動)
・文化祭 ・市総体壮行会 ・文化祭	・市駅伝大会壮行会 ・持久走大会		・ボランティア活動などの社会参加 ・防災訓練と防災学習	・生徒会総会 ・自然教室	・球技大会 ・3年生を送る会 ・卒業式
		・冬季に多い傷害予防指導			
・文化祭の準備と安全	・携帯電話・パソコンの安全な使いかた	・避難時の約束について	・自転車の正しい乗り方と危険防止	・施設・設備等の安全な使い方について	・1年間の人的管理の評価と反省
・学校環境の安全点検及び整備(体育館)	・避難経路の確認 ・防災設備、用具の点検整備	・避難所として開放する場所の点検	・学校環境の安全点検及び整備(通学路)	・学校環境の安全点検及び整備(備品)	・1年間の学校環境安全点検の評価と反省
・地域学校安全委員会(学校保健委員会) ・校内の点検	・通学路点検 ・自転車の安全な利用に関する研修(指導方法)	・地域防災訓練の啓発 ・年末年始の交通安全運動の啓発	・阪神・淡路大震災(17日)の想起と防災の啓発活動 ・応急手当と緊急時校内連絡体制	・地域学校安全委員会(学校保健委員会)	・地域交通安全パトロール ・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

項目		4	5	6	7・8	9	
		安全な通学	学校生活での安全	梅雨期の健康安全	野外活動での安全	学校行事での安全	
安 全 学 習	地理歴史・公民	・(現)青年期の課題	・(地)世界の地形・気候	・(現)現代社会の特質	・(現)都市問題		
	理科	・実験器具等の安全な扱い方 ・施設・設備・薬品管理等の点検	・観察、実験における一般的な注意及び危険防止の注意	・(物)摩擦力、運動量、円運動等による車の安全運転の理解	・(物)衝突・運動エネルギー及びエネルギー保存法則による車の衝突の理解	・(化)物質と人間生活(身近にある化学物質の性質の正しい理解)	
	保健体育	・体育施設・用具の安全点検	・(保)交通安全	・雨季の体育館、グラウンド使用(転倒防止) ・(保)応急手当	・水泳の安全 ・熱中症の予防 ・野外活動と安全 ・体育施設・用具の安全点検	・体育施設・用具の安全点検	
	実験・実習を伴う科目	施設器具・器械の取扱いと使用上の注意、点検・整備熱源・電気器具の取扱いと使用上の注意、点検・整備					
	総合的な学習の時間	〈学習活動例〉テーマ「地域の安全と防災」 ○防災ホームページの閲覧、災害の種類と対応(防災壁新聞・ポスター・パンフレット作成)、阪神淡路大震災について、学習のまとめ					
	安 全 教 育	1年ホームルーム活動	◎高校に入学して ●通学時の安全 ●防災体制の確立 ●犯罪被害の防止	◎交通安全への参加 ●部活動や休憩時の安全 ●自転車の構造と点検整備	◎通学路に潜む危険 ●地震と安全 ●雨の日の安全行動	◎夏休みの生活と安全(防犯を含む) ●野外活動の安全 ●落雷の危険	◎地震災害対策 ◎歩行者の安全と交通環境 ●通学路の安全
		2年ホームルーム活動	◎2年生になって ●通学時の安全 ●防災体制の確立 ●犯罪被害の防止	◎高校生の心理や行動と事故の特長 ●部活動と健康管理 ●自転車の安全な利用	◎地震と安全 ●雨の日の安全行動	◎夏休みの生活と安全(防犯を含む) ●野外活動の安全 ●落雷の危険	◎地震災害対策 ◎交差点に潜む危険 ●通学路の安全
		3年ホームルーム活動	◎3年生になって ●通学時の安全 ●防災体制の確立 ●犯罪被害の防止	◎幼児・高齢者・障害のある人の心理と行動 ●安全意識と行動 ●自転車の安全な利用	◎運転者の心理と行動特性 ●地震と安全 ●雨の日の安全行動	◎夏休みの生活と安全(防犯を含む) ●野外活動の安全 ●落雷の危険	◎地震災害対策 ◎交通事故の対応と応急手当 ●通学路の安全
		主な学校行事	・入学式 ・始業式 ・春の交通安全指導 ・定期健康診断 ・歓迎遠足 ・1年生(オリエンテーション) ・部活動年間計画作成	・学校保健安全委員会 ・遠足安全指導 ・救急法講習会 ・交通安全教室 ・3年生(生徒指導集会) ・高校総体壮行会	・防災避難訓練「火災」 ・高校総体 ・保健委員会 ・2年生(生徒指導集会)	・終業式 ・防犯避難訓練(防犯教室も実施) ・夏休みの諸注意	・始業式 ・防犯避難訓練「地震」 ・文化祭 ・文化祭実行委員会
		個別指導	・自転車、バイク通学許可 ・校門立番指導	・自転車、バイクの点検	・健康診断結果の指導	・校外指導 ・生徒指導全体委員会 ・自転車、バイクの実技指導 ・免許取得指導 ・校外巡視	・自転車、バイクの点検 ・新規免許取得者指導
部活動		・新入部員オリエンテーション	・用具の点検・整備	・部活動部長会	・救急法実技講習会 ・合宿・遠征の安全	・用具の点検・整備	
生徒会活動		・新入生オリエンテーション	・壮行会	・保健委員会	・球技大会	・文化祭	
安 全 管 理	対人管理 学校生活の安全管理	・通学状況調査 ・防災体制の確立 ・救急体制の確立 ・登下校指導 ・安全計画の設定 ・下宿、アルバイト調査	・授業時の安全確認(体育実技、農業実習、理科実験、家庭科実習) ・車に係る規則の徹底 ・事故調査と防止対策	・生徒引車の安全確認 ・防災避難訓練の徹底	・長期休業前生活指導 ・大掃除の安全確認	・防災対策の徹底 ・通学路の見直し ・防災避難訓練の徹底 ・文化祭の安全対策 ・授業時の安全管理点検	
	対物管理 学校環境の安全点検	・学校環境の安全点検整備(施設・整備、通学路) ・自転車置場施設 ・防災設備の点検整備 ・自家用電気工作物保安点検	・学校環境の安全点検(普通・特別教室、実験実習器具) ・環境整備美化作業 ・自家用電気工作物保安点検 ・毒物劇物の適正な管理等について	・学校環境の安全点検整備(体育館、格技場、部室、運動器具) ・プール掃除 ・通学路安全点検	・学校環境の安全点検(校庭、学校全館) ・消火器、消火栓、火災報知器の点検	・学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実験実習器具) ・通学路安全点検 ・防災施設・設備の点検整備	
学校安全に関する組織活動(研修含む)		・春の交通安全運動 ・交通街頭指導 ・中高連絡会 ・職員会議(危機管理体制) ・教職員研修(安全点検、AED)	・PTA総会 ・保護者会 ・学校(保健)安全委員会	・保護者面談 ・PTA委員会 ・教職員研修(熱中症の予防)	・生徒指導協議会(学警連絡協議会) ・校外指導・危険箇所巡視 ・教職員研修(防犯) ・国民安全の日	・国民防災の日 ・秋の交通安全運動 ・教職員研修(自然災害)	

学校安全計画(高等学校)

10	11	12	1	2	3
交通道徳の理解 ・(現)地球環境問題	安全な行動 ・(現)地方自治と住民参加	事故災害の防止 ・(現)公害の防止と環境保全 ・(地)地球の内部・大気・海洋に関する正しい理解	安全な通学 ・(現)公害問題 ・(地)居住・都市問題	事故原因と対策 ・(倫)現代に生きる人間の自然観と人間観	安全な生活 ・(倫)人間としての在り方、生き方
・(生)ガス中毒、一酸化炭素中毒の仕組みと応急手当	・(物)電気器具の取扱い上の注意		・(化)物質の変化、化学反応(反応熱、酸、塩基についての正しい理解)	・(生)環境と動物の反応についての正しい理解	・(化)炭化水素類の取扱い上の注意
・(保)健康と運動 ・体育大会の準備 ・体育大会の事故防止	・体力について	・冬季スポーツの意義 ・校内マラソン大会の安全 ・体育施設・用具の安全点検	・体育施設・用具の安全点検	・(保)職業と健康	・安全に関する評価 ・体育施設・用具の安全点検
化学薬品の取扱いと使用上の注意、点検・整備					
ボランティア活動体験、地域ハザードマップについて、災害時における応急救護実習、非常食の作り方実習、防災関連施設の見学、今年度総合					
◎事故災害時の応急手当 ●体育大会の安全	◎自転車加害事故の責任 ●火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ●校内マラソン大会の安全 ●冬休みの生活と安全	◎交通事故の対応と応急手当	◎幼児と老人の心理と行動 ●危険の予測 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動の評価とまとめ
◎修学旅行の安全 ●体育大会の安全	◎危険予測訓練 ●火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ●校内マラソン大会の安全 ●冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題	◎休業日の交通事故防止 ●規律正しい生活 ●地域の安全活動	◎春休みの生活と安全 ●今年度活動の評価とまとめ
◎事故災害時の応急手当 ●体育大会の安全 ●地域の安全活動	◎運転免許の仕組みと運転者の義務・責任 ●火災の予防とストーブの取扱い	◎火災予防と避難訓練 ●校内マラソン大会の安全 ●冬休みの生活と安全	◎これからの社会生活と交通問題	◎家庭学習について ●規律正しい生活	◎卒業に当たって ●今年度活動の評価とまとめ
・修学旅行 ・体育大会	・交通安全教室	・校内マラソン大会 ・防災避難訓練 「火災」 ・冬休みの諸注意 ・終業式	・始業式	・学校保健委員会 ・1,2年生(生徒指導集会) ・校内意見発表会	・卒業式 ・終業式 ・春休みの諸注意
・校外巡視	・第2回バイク通学許可 ・校外巡視	・バイク、自動車免許取得の 手続き ・校外巡視	・免許取得の指導 ・校外巡視	・校外巡視 ・入社前指導	・校外巡視 ・バイク免許取得の手続き
・活動場所の安全点検	・用具の点検・整備	・部室の安全点検	・活動場所の安全点検	・応急手当実技講習	
・体育大会	・保健委員会	・球技大会	・保健委員会	・3年生を送る会	
・修学旅行の安全対策 ・体育大会の安全対策 ・事故災害時の応急手当の徹底	・文化祭の安全対策	・校内マラソン大会の安全対策 ・長期休業前生活指導 ・冬休みの健康管理 ・校内競技大会の安全対策 ・防災避難訓練の徹底	・暖房の取扱い	・交通規則の徹底	・今年度活動の反省と次年度の計画立案 ・長期休業前生活指導 ・本年度事故発生のおまとめ
・学校環境の安全点検整備(体育館、部室、運動器具)	・学校環境の安全点検整備(校庭) ・ストーブの取扱い方 ・毒物劇物危害防止対策 総点検	・学校環境の安全点検整備(普通・特別教室、実習実験器具) ・防災施設・設備の点検整備	・学校環境の安全点検整備(体育館、部室、運動器具) ・火器器具の安全点検	・学校環境の安全点検整備(施設、整備) ・火器器具の安全点検	・今年度の安全点検活動の評価 ・次年度の計画立案 ・生徒用机・いすの点検整備 ・防災施設・設備の点検整備
・中高連絡会 ・学校(保健)安全委員会 計画訪問による理科薬品等の適正な管理点検	・保護者面談週間 ・安全に関する広報活動	・交通街頭指導 ・生徒指導協議会(学警連絡協議会) ・年末の交通安全運動 ・交通安全に関する研修(法令等改正、自転車等安全利用に関する指導方法等)	・交通街頭指導 ・PTA委員会 ・学校保健(安全)委員会 ・国民防災とボランティア週間	・安全に関する広報活動	・今年度活動の評価と次年度の計画立案 ・校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

学校安全計画例<特別支援学校（知的障害）小学部>

項目	月	4	5	6	7・8	9
月の重点		通学路の安全を確認しよう	交通安全に気をつけて通学しよう	プールでの事故に気をつけよう	夏休みを安全に過ごそう	災害に備えた生活を考えよう
安全 全 学 科 習 安 全 教 育 指 導 安 全 管 理	生活	けがや体調を人に伝える 保健室の利用の仕方 落ち着いて簡単な手当を受ける 避難訓練を知る 安全な避難 公共施設について知る 公共施設や交通機関の安全な利用				
	図画工作	クレヨン、はさみ、のり、セロテープ、カッター、絵の具、彫刻刀、へら等の用具の安全な使い方 アルミ箔、粘土、針金、プラスチック等の材料の安全な使い方 写生や共同作品制作時の安全				
	体育	走る、跳ぶ、転がる等の基本的な運動における安全	感覚遊具を使った運動での安全	水遊び・水泳時の安全	集団行動時の安全	
	自立活動	健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの内容				
	生活安全	新しい生活に慣れる ・新しい友達や先生 ・新しい教室	生活の中での決まり ・集合 ・整列 ・ペアでの活動 ・集団生活での決まり	安全な水遊び ・安全に水と親しむ ・水遊びでの約束	夏休みの過ごし方 ・夏休みの安全な過ごし方 ・夏休みの約束	知らない人との接し方 ・身近な人と知らない人 ・知らない人との接し方 ・不審者対応避難訓練
	交通安全	安全な登下校の仕方 ・登下校の約束 ・登下校指導(保護者・教員との登下校)	交通安全指導 ・道路の歩き方 ・右側通行	雨の日の歩き方 ・雨の日の危険 ・傘の安全な差し方 ・雨カッパの利用	車やバスの安全な利用 ・安全な乗り降り ・停留所でのマナー ・シートベルトの着用 ・乗車中のマナー	交通安全指導 ・道路の渡り方 ・飛び出し注意 ・信号機の色が決まり ・交差点の横断
	災害安全	火事について知る ・火事の原因 ・火の危険 ・煙の怖さ ・安全な火の取扱い ・火災避難訓練	地震について知る ・地震とは ・津波とは ・地震避難訓練	校外学習(防災センター見学) ・地震体験 ・風雨体験 ・まなぼうさい教室	自宅での安全な避難 ・自宅での避難方法 ・安全に避難するには ・台風時の安全な過ごし方 ・落雷の危険 防災キャンプ	総合防災訓練(消防署、地域住民等)時の避難方法 ・近所の人との避難 ・総合防災訓練
	学級活動	各月の避難訓練や安全指導に対して学級活動を活用して、事前学習や事後学習を行い、児童がより理解できるように繰り返し学習する。				
	学校行事等	入学式 火災避難訓練	地震避難訓練 交通安全指導	校外学習(防災センター見学)	校外学習 防災キャンプ	総合防災訓練(消防署、地域住民等)
	対人管理	生徒の状況把握 通学経路の確認 避難経路の確認 次月の避難訓練確認 火元責任者の表示	緊急体制の確認 健康視察 避難経路確認	水泳指導健康管理 健康観察 心肺蘇生法の確認	水泳指導健康管理 健康観察 AEDの使い方確認 夏季休業中の安全	水泳指導健康管理 健康観察
対物管理	防災計画届け出 通学路確認 安全対策マニュアル	飲料水点検 防災設備点検 避難経路点検	プール施設・設備点検 水質検査	各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導		
学校安全に関する組織活動(研修含む)	学校安全衛生委員会(年3回)、PTA・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規制					
	春の交通安全運動	職員防災研修	救急法講習会	AED講習会 安全点検	秋の交通安全運動	

学校安全計画例〈特別支援学校（知的障害）小学部〉

10	11	12	1	2	3
体育祭を安全に成功させよう	文化祭を安全に成功させよう	冬休みを安全に過ごそう	暖房器具の安全について考えよう	事故防止について確認しよう	春休みを安全に過ごそう
危険なことや危険な場所について知る 道具や器具等の安全な使い方 交通ルールを守る 交通安全教室への参加					
クレヨン、はさみ、のり、セロテープ、カッター、絵の具、彫刻刀、へら等の用具の安全な使い方 アルミ箔、粘土、針金、プラスチック等の材料の安全な使い方 写生や共同作品制作時の安全 【再掲】					
ジグザグ、S字コース、リレーなどの運動時における安全	ボール運動における安全	サーキット運動における安全	ランニング・持久走における安全	マットなどの器械運動における安全	表現運動での安全
健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの内容					
修学旅行・宿泊学習時の安全 ・修学旅行や宿泊学習での安全な生活 ・集団行動のルール ・公共交通機関の安全な利用	校外学習・遠足時の安全 ・校外活動時の安全 ・集団行動のルール ・公共交通機関の安全な利用	冬休みの過ごし方 ・冬休みの安全な過ごし方 ・暖房器具と冬の生活 ・冬休みの目標 ・防寒着の利用	手洗いやうがいの仕方 ・石けんを使った手洗い ・正しいうがいの仕方	けがをした時の対応 ・けがを人に伝える方法 ・保健室の利用	春休みの過ごし方 ・春休みの安全な過ごし方 ・春休みの目標
自転車のマナー ・自転車が行く場所 ・自転車に乗る時の約束 ・歩行者と自転車の違い ・自転車の安全な乗り方	交通安全指導 ・身近な道路標識 ・曲がり角の安全 ・踏切の渡り方	スクールバスの安全な利用 ・バス乗車中のマナー ・避難についての理解 ・避難の仕方 ・スクールバス避難訓練	交通安全指導(警察署) ・交通安全教室(信号機、横断歩道)	雪の日の歩き方 ・雪の日の安全な歩き方 ・凍った道路の安全な歩き方	交通事故の防止 ・車の危険 ・起こりやすい事故
火災時の避難方法 ・抜き打ち火災避難訓練 ・抜き打ち火災避難訓練 事後指導	校外活動時の安全な避難 ・校外での避難方法 ・安全に避難するために	地震時の避難方法 ・抜き打ち地震避難訓練 ・抜き打ち地震避難訓練 事後指導	消火器について知る ・消火器の安全な使い方 ・消火器の設置場所	夜間の災害 ・夜起る火災や地震 ・寄宿舎避難訓練	避難持ち出し品について知る ・避難持ち出し品について ・避難持ち出し品の確認 ・非常食の試食
各月の避難訓練や安全指導に対して学級活動を活用して、事前学習や事後学習を行い、児童がより理解できるように繰り返し学習する。【再掲】					
修学旅行・宿泊学習 体育祭 火災避難訓練	校外学習・遠足 文化祭	地震避難訓練	交通安全指導	寄宿舎避難訓練	卒業式
健康観察	健康観察	健康観察 避難経路確認	健康観察 冬季休業中の安全	健康観察 避難経路確認	健康観察 春季休業中の安全
防災設備点検	暖房器具の設備点検	室内有害物質検査 避難経路点検	照度検査	避難経路点検	
各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導【再掲】					
学校安全衛生委員会(年3回)、PTA・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規制【再掲】					
不審者対応訓練		安全点検	防災に関する研修		安全点検 校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

学校安全計画例<特別支援学校(知的障害) 中学部>

項目	月	4	5	6	7, 8	9
月の重点		通学路の安全を確認しよう	交通安全に気をつけて通学しよう	プールでの事故に気をつけよう	夏休みを安全に過ごそう	災害に備えた生活を考えよう
安 全 学 習	社会	警察署, 消防署, 病院等の公共施設の働きと利用方法				
	理科	日常生活で扱う電気, プロパンガスや都市ガス等の熱源の安全な保管や取扱い 食品容器等に用いられるプラスチック, 食器等のガラス等の性質や用途の理解と安全な取扱い				
	美術	美術室の安全な使い方 水彩用具, 塗料用具(ニスなど), 接着剤, 彫刻刀, 木材・金属加工用具(のこぎり, きり, ペンチ等), 電動工具(糸のこ盤など)等の安全な取扱い				
	保健体育	集団競技等における決まり	休作り運動における安全	健康的な生活	水泳指導における安全	体育祭の練習や当日における安全
	職業・家庭	工具類や農具, 工作機械, 電気製品等の安全な使い方 包丁, ピーラー, 調理ばさみ等の調理器具や, ミキサー等の電気製品の安全な使い方 安全な調理 衛生面についての理解(作業帽, マスク等の着用, 手洗い, 食品管理等)				
	総合的な学習の時間	自然にかかわる体験活動, ボランティア活動, 交流及び共同学習等における安全				
	自立活動	健康の保持, 心理的な安定, 人間関係の形成, 環境の把握, 身体の動き, コミュニケーションの内容				
	生活安全	新しい学級への適応 ・新しい人間関係 ・新しい学級 ・学級での役割	集団行動でのルール ・グループでの活動 ・学級のルール ・集団生活でのルール	水泳時の安全 ・水の危険 ・もしもの時のSOS	夏休みの安全な過ごし方 ・家庭や地域での安全な生活 ・夏休みの目標 ・余暇の利用 ・携帯電話の安全な利用	不審者から身を守る ・不審者からの身の守り方 ・防犯ベルの使い方 ・警察への通報 ・不審者対応避難訓練
	交通安全	登下校時の危険回避 ・通学路の危険と安全 ・登下校指導(見守り指導) ・困った時の連絡の取り方	交通安全指導(警察署) ・歩行者のマナー ・車の危険	雨の日の安全な通学 ・雨の日の歩行者マナー ・雨の日の歩行指導	自動車や路線バスの安全な利用 ・自動車や路線バスの安全な乗車 ・自動車や路線バスの中での危険 ・駅構内や停留所での安全と危険	交通安全指導 ・危険の予知と危険回避 ・夜間の歩き方
	災害安全	火災時の避難方法 ・安全な避難方法 ・もしもの時の身の安全 ・火災報知器の役割 ・火災通報 ・火災避難訓練の大切さ ・火災避難訓練	地震時の避難 ・地震, 津波の怖さ ・安全な避難方法 ・身の守り方 ・避難場所と避難経路 ・地震避難訓練 ・防災キャンプ	校外学習(防災センター見学) ・地震体験 ・風雨体験 ・まなぼうさい教室	地域での安全な避難 ・地域避難所と避難経路の確認 ・防災キャンプ	総合防災訓練(消防署, 地域住民等)時の避難方法 ・総合防災訓練の必要性 ・学校周辺での安全な避難 ・総合防災訓練
学級活動	各月の避難訓練や安全指導に対して学級活動を活用して, 事前学習や事後学習を行い, 生徒がより理解できるように繰り返し学習する。					
学校行事等	入学式 火災避難訓練	地震避難訓練 交通安全指導	校外学習(防災センター見学)	校外学習 防災キャンプ	総合防災訓練(消防署, 地域住民等)	
安 全 管 理	対人管理	生徒の状況把握 通学経路の確認 避難経路の確認 次月の避難訓練確認 火元責任者の表示	緊急体制の確認 健康視察 避難経路確認	水泳指導健康管理 健康観察 心肺蘇生法の確認	水泳指導健康管理 健康観察 AEDの使い方確認 夏季休業中の安全	水泳指導健康管理 健康観察
	対物管理	防災計画届け出 通学路確認 安全対策マニュアル	飲料水点検 防災設備点検 避難経路点検	プール施設・設備点検 水質検査	各教室, 特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック, 校内巡回指導	
学校安全に関する組織活動(研修含む)	学校安全衛生委員会(年3回), PTA・地域との連携, 登下校時刻の通学路交通規制					
		春の交通安全運動	職員防災研修	救急法講習会	AED講習会 安全点検	秋の交通安全運動

学校安全計画例<特別支援学校（知的障害）中学部>

10	11	12	1	2	3
体育祭を安全に成功させよう	文化祭を安全に成功させよう	冬休みを安全に過ごそう	暖房時の安全を確認しよう	事故防止について確認しよう	春休みを安全に過ごそう
警察署、消防署、病院等の公共施設の働きと利用方法 [再掲]					
ドリルや糸のこ等の機械類、扇風機や洗濯機等の日常生活で使用する電気器具等の仕組みと安全な取扱い 気象の変化や地震、津波等の自然の事象・現象の理解					
美術室の安全な使い方 水彩用具、塗料用具(ニスなど)、接着剤、彫刻刀、木材・金属加工用具(のこぎり、きり、ペンチ等)、電動工具(糸のこ盤など) 等の安全な取扱い [再掲]					
器械運動における安全	バドミントン、卓球等の球技における安全	陸上運動における安全	ダンス運動における安全	けがや病気の予防や対応	柔道などの武道における安全
工具類や農具、工作機械、電気製品等の安全な使い方 包丁、ピーラー、調理ばさみ等の調理器具や、ミキサー等の電気製品の安全な使い方 安全な調理衛生面についての理解(作業帽、マスク等の着用、手洗い、食品管理等) [再掲]					
自然にかかわる体験活動、ボランティア活動、交流及び共同学習等における安全[再掲]					
健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの内容[再掲]					
修学旅行・宿泊学習や校外学習・遠足時の安全 ・校外活動時の留意点 ・集団行動のルール ・公共交通機関の安全な利用	部活動での安全 ・部活動を行う上での留意点 ・集団活動や競技上のルール ・体調管理	冬休みの安全な過ごし方 ・ガスコンロの安全な取扱い ・暖房器具の安全な使い方 ・冬休みの目標 ・衣服の調節	食生活での衛生 ・給食時の手洗い、配膳 ・調理時の衛生	病気やけがの対応 ・自分でできる応急処置 ・緊急連絡方法	春休みの安全な過ごし方 ・家庭や地域での安全な生活 ・春休みの目標 ・余暇の利用
自転車の安全な乗り方 ・自転車の安全な乗り方 ・自転車の危険 ・雨の日の危険	交通安全指導 ・交差点の理解 ・交差点での留意点 ・安全な交差点の歩き方	スクールバスの安全な利用 ・バス乗車中のマナー ・避難についての理解 ・避難の仕方 ・スクールバス避難訓練	交通安全指導 ・交通安全教室(交差点)	雪の日の安全な通学 ・積雪、凍結時の危険 ・積雪、凍結時の服装と履き物	交通事故から身を守る ・交通事故が発生しやすい場所 ・交通事故と安全
火災時の避難方法 ・抜き打ち火災避難訓練 ・抜き打ち火災避難訓練 事後指導	校外活動時の安全な避難 ・避難経路の確認 ・いろいろな場所での避難	地震時の避難方法 ・抜き打ち地震避難訓練 ・抜き打ち地震避難訓練 事後指導	消火器の使い方 ・初期消火の大切さ ・消火器の設置場所	夜間の安全な避難 ・夜間の避難時の留意点 ・寄宿舎避難訓練	避難持ち出し品の準備 ・緊急時の備え(避難持ち出し品の準備) ・避難持ち出し品の保管場所
各月の避難訓練や安全指導に対して学級活動を活用して、事前学習や事後学習を行い、生徒がより理解できるように繰り返し学習する。[再掲]					
修学旅行・宿泊学習 体育祭 火災避難訓練	校外学習・遠足 文化祭	地震避難訓練	交通安全指導	寄宿舎避難訓練	卒業式
健康観察	健康観察	健康観察 避難経路確認	健康観察 冬季休業中の安全	健康観察 避難経路確認	健康観察 春季休業中の安全
防災設備点検	暖房器具の設備点検	室内有害物質検査 避難経路点検	照度検査	避難経路点検	
各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導[再掲]					
学校安全衛生委員会(年3回)、PTA・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規制[再掲]					
不審者対応訓練		安全点検	防災に関する研修		安全点検 校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

学校安全計画例<特別支援学校(知的障害)高等部>

項目	月	4	5	6	7, 8	9	
月の重点		通学路の安全を確認しよう	交通安全に気をつけて通学しよう	プールでの事故に気をつけよう	夏休みを安全に過ごそう	災害に備えた生活を考えよう	
安 全 学 習	社会	警察署(派出所), 消防署, 病院等の公共施設や, 電車やバス等の公共交通機関の働きと利用方法 新聞, テレビ放送, ラジオ放送, 情報通信ネットワーク等の媒体からの情報の収集と活用 地図やグラフ等の資料の比較から, 地域の気候への気付き					
	理科	フラスコ, ピーカー, アルコールランプ, 凸レンズ, 針金等の実験器具等の安全な使い方 病気やけが等の原因や症状 病気に関係するかびや細菌 消毒の働きや医薬品 有害な物質 病気やけが等の処置や身の回りの清潔を保つ方法 地震や火山活動, 台風等の自然現象と生活					
	美術	美術で使用するのはさみやカッター, ナイフ, 彫刻刀, 木, 土練機等の道具の安全な使い方					
	保健体育	体育施設・用具の安全な使用	準備運動等の必要性	プールにおける安全, 救急法・心肺蘇生法講習	プールにおける安全	体育祭練習や当日の安全	
	職業	工具や農具, 工作機械, 運搬用機器, 製造機器等の道具や機械の安全な取扱い 製造機器などの衛生管理 産業現場などにおける実習での安全 働く上での安全, 衛生についての理解 木工:ドリルやベルトグラインダー等の電動工具の安全な使い方 のこぎりなどの工具の使い方, 塗料の使い方と換気 材料の安全な取り扱い 園芸: 鍬や移植後, 鎌等の道具の安全な使い方 土飾を使った安全な土のふるい方 野菜や花等を育てる上での安全な作業 農薬や肥料等の正しい取り扱い					
	家庭	調理で使用するガスコンロ等の安全な使い方 包丁, ピラー, 調理ばさみ等の調理器具の安全な使い方 針やはさみ等の道具の安全な使い方 洗濯や清掃等で使用する漂白剤などの取扱いに注意を要する					
	総合的な学習の時間	自然にかかわる体験活動, ボランティア活動, 交流及び共同学習等における安全					
	自立活動	健康の保持, 心理的な安定, 人間関係の形成, 環境の把握, 身体の動き, コミュニケーションの内容					
	教 育	生活安全	新しいホームルームへの適応 ・新しい人間関係 ・急な予定変更への対応	集団行動への適応 ・大集団での活動 ・HRRのルール ・社会生活でのルール	水の事故と安全 ・水の事故 ・事故遭遇時の対応 ・着衣水泳訓練	夏休みの安全な生活 ・地域での安全な生活 ・夏休みの目標 ・安全な余暇活動 ・携帯安全教室	不審者への対応 ・けがの防止と応急処置 ・不審者に遭遇した時の対応 ・緊急時の通報 ・不審者対応避難訓練
		交通安全	登下校時の安全指導 ・登下校指導 ・緊急時の連絡方法	交通安全指導(警察署) ・見通しの悪い交差点の渡り方 ・オートバイや自転車の危険 ・実習先への安全な通勤	雨天時の交通安全 ・雨の日の危険 ・雨天時の事故防止	交通機関の安全な利用 ・いろいろな交通機関の安全な利用	歩行者のマナー ・交通安全検定 ・歩行者と自転車のマナー
災害安全		火災時の避難方法 ・安全な避難経路 ・火災報知器のある所 ・避難時の留意点 ・火災避難訓練(煙体験)	地震時の避難 ・地震や津波の避難の基本 ・集団避難の留意点 ・地震避難訓練	校外学習(防災センター) ・災害の理解 ・体験から学ぶ ・体験の振り返り	地域での安全な避難 ・家族の避難方法の確認 ・地域の避難所と避難経路の確認 防災キャンプ	総合防災訓練(消防署, 地域住民等)時の避難方法 ・総合防災訓練での役割 ・総合防災訓練	
ホームルーム活動		各月の避難訓練や安全指導に対してホームルーム活動を活用して, 事前学習や事後学習を行い, 生徒がより理解できるように繰り返し学習する。					
学校行事等		入学式 火災避難訓練	地震避難訓練 交通安全指導	校外学習(防災センター見学)	校外学習 防災キャンプ	総合防災訓練(消防署, 地域住民等)	
安全管理		対人管理	生徒の状況把握 通学経路の確認 避難経路の確認	緊急体制の確認 健康観察 避難経路確認	水泳指導健康管理 健康観察 心肺蘇生法の確認	水泳指導健康管理 健康観察 AEDの使い方確認	水泳指導健康管理 健康観察
	対物管理	防災計画届け出 通学路確認 安全対策マニュアル	飲料水点検 防災設備点検 避難経路点検	プール施設・設備点検 水質検査	各教室, 特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック, 校内巡回指導(再掲)		
学校安全に関する組織活動(研修含む)	学校安全衛生委員会(年3回), PTA・地域との連携, 登下校時刻の通学路交通規制						
	春の交通安全運動		職員防災研修	救急法講習会	AED講習会 安全点検	秋の交通安全運動	

学校安全計画例<特別支援学校（知的障害）高等部>

10	11	12	1	2	3
体育祭を安全に成功させよう	文化祭を安全に成功させよう	冬休みを安全に過ごそう	暖房時の安全を確認しよう	事故防止について確認しよう	春休みを安全に過ごそう
公共施設や公共交通機関等を利用するための技能の習得 災害などへの関心をもち、日常生活の中での必要な注意事項を考える 災害予防についての理解					
水酸化ナトリウム、塩化ナトリウム等の実験で使用する薬品などの安全な使い方と点検 健康維持に関連する食品と栄養 漂白剤、殺虫剤等の薬品類、ワックスなどの油脂類、ガソリンや灯油、卓上コンロ用のガス等の安全な使い方					
プラスチック、竹ひご、銅板、板などの材料の安全な使い方 写生や共同作品制作時の安全な設定					
ダンス指導における安全	柔道等の武道における安全	陸上運動、持久走における安全	ソフトボール、キックベースボール、サッカー等の球技指導における安全	けがの防止と病気の予防	器械運動の安全
接客:実際の接客に必要なコミュニケーション能力の育成 トレイの持ち方 グラスの運び方 テーブルへの置き方など安全な接客 事務:印刷機、シュレッダーなどの事務用機器の安全な使い方 はさみやカッター等の道具の安全な使い方 福祉:福祉機器や用具等の安全な取扱い 利用者の安全に配慮した操作 衛生管理 移動用リフト、電動ベルト等					
冷蔵庫などの衛生管理 ミキサー、電子レンジ、ホットプレート、ミシン、アイロン等の電気器具の安全な取扱い 消毒薬や用具等の安全な使い方 防犯ベル、火災報知器、消化器等の正しい取扱い 地震、台風、洪水等から身を守る					
自然にかかわる体験活動、ボランティア活動、交流及び共同学習等における安全〔再掲〕					
健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの内容〔再掲〕					
修学旅行・宿泊学習や校外学習・遠足時の安全 ・校外活動時での危険と安全 ・集団行動のルール ・公共交通機関の安全な利用	部活動での事故防止 ・部活動中の危険 ・集団活動や競技上のルールの遵守 ・スポーツと体調管理	冬休みの安全な生活 ・家庭や地域での防災 ・冬休みの目標 ・安全な余暇活動 ・体調管理	食の衛生管理 ・給食時の衛生管理 ・調理実習時の衛生管理	病気やけがの予防 ・病気やけがの原因 ・病気やけがの予防 ・救急車への連絡方法 ・救急法講習会 ・薬物乱用防止教室	春休みの安全な生活 ・地域での安全な生活 ・春休みの目標 ・安全な余暇活動
自転車のマナー ・自転車に関係のある道路標識 ・雨の日のマナー ・歩行者に優しい乗り方 ・夜間の乗り方 ・安全点検	踏切での安全 ・踏切の理解 ・踏切の留意点 ・安全な踏切の渡り方 ・夜間の歩き方	スクールバスの安全な利用 ・バス乗車中のマナー ・避難についての理解 ・避難の仕方 ・スクールバス避難訓練	交通安全指導 ・交通安全教室(踏切) ・道路標識	雪の日の交通安全 ・積雪、凍結時の車による危険 ・積雪、凍結時の安全指導	交通事故遭遇時の対応 ・警察への連絡方法 ・緊急時の連絡先と連絡方法 ・応急処置の仕方
火災予防 ・火災が起こる原因 ・火災を起こさない生活 ・生活点検 ・抜き打ち火災避難訓練	校外活動時の安全な避難 ・公共施設での避難訓練 ・いろいろな場所での避難訓練	地震時の避難方法 ・抜き打ち地震避難訓練 ・抜き打ち地震避難訓練事後指導	火災時の対応 ・家庭での初期消火 ・火災通報	夜間避難時の危険回避 ・夜間避難時の危険予測 ・寄宿舎避難訓練	避難持ち出し品の点検 ・避難持ち出し品の定期点検 ・非常食の入れ替え
各月の避難訓練や安全指導に対してホームルーム活動を活用して、事前学習や事後学習を行い、生徒がより理解できるように繰り返し学習する。〔再掲〕					
修学旅行・宿泊学習 体育祭 抜き打ち火災避難訓練	校外学習・遠足 文化祭	抜き打ち地震避難訓練	交通安全指導	寄宿舎避難訓練	卒業式
健康観察	健康観察	健康観察 避難経路確認	健康観察 冬季休業中の安全	健康観察 避難経路確認	健康観察 春季休業中の安全
防災設備点検	暖房器具の設備点検	室内有害物質検査 避難経路点検	照度検査	避難経路点検	
各教室、特別教室等の防火管理担当者による毎日の消防設備点検と閉鎖障害チェック、校内巡回指導〔再掲〕					
学校安全衛生委員会(年3回)、PTA・地域との連携、登下校時刻の通学路交通規制〔再掲〕					
不審者対応訓練		安全点検	防災に関する研修		安全点検 校内事故等発生状況と安全措置に関する研修

2 避難訓練の指導例

(1) 学級活動(ホームルーム活動)における指導展開例

① 授業中に地震が発生したとき

主 題 名	普通教室で地震が発生したとき	
主題設定の理由	普通教室で授業中に地震が発生したとき、児童等は自分勝手な行動をとったり、教室全体がパニックに陥ったりすることが考えられる。このようなことを防ぎ、地震に対して適切に対処し、自らの命を守り抜くために主体的に行動できる態度や能力を身に付けさせることを目的として、本主題を設定した。	
指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・地震発生時に起こる現象と集団行動の大切さを理解させる。 ・初期激震期の適切な対処の方法について理解させる。 ・初期行動と避難行動の基本的な方法について理解させる。 	
指 導 事 項	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
大地震の様子	1 地震発生時に起こる様々な現象について話し合う。 (1) 阪沖・淡路大震災，東日本大震災等の映像データ (2) 児童等の体験作文 (3) 大地震の話 (4) 教室内の掲示	<ul style="list-style-type: none"> ・いたずらに恐怖心をかりたてるのではなく、地震の際、自らがとるべき行動を理解させる。 ・被害の状況や地震の実態等の資料は発達段階に即した理解しやすいものを使用する。
地震発生時の行動	2 教室内で被震したときの初期行動について話し合う。 (1) 教室内の危険とその対処について話し合う。 ・机の下にもぐり，机の脚をつかむ。 ・窓際から中央へ移動する。 ・座布団，カバン等で頭を覆う。 ・大きな揺れは長くても2分以内である。 (2) 避難行動について話し合う。 ・出入口を確保し，窓を開ける。 ・指導者の指示により，慌てず行動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・基本となる行動や態度について理解させる。 ・使用している教室内の落下物や倒壊による危険物を，チェックさせる。 ・初期行動の具体的方法を話し合わせる。 ・集団行動の大切さを理解させる。 ・避難経路での危険や避難行動中の留意点について話し合い，まとめさせる。
評 価	1 児童生徒等一人ひとりが実際に地震を想定し，地震の恐ろしさと集団行動の大切さを理解できたか。 2 基本的な初期行動と避難行動を理解できたか。	

1 予想される状況

下に示した(1)～(7)は身体に危害を及ぼすであろうと予想される状況によって分類整理したものである。下記の事項を参考にし、普通教室、体育館など、児童生徒等が使用する可能性のある場所について、予想される危険な状況を調査し、整理しておくといよい。

また、学習に際しては、実際にその場所に行ったり、スライドを準備したりして、臨場感を持たせるとよい。

(1) 落下物による危険物

蛍光灯、時計、額縁、植木鉢、テレビ、スピーカー、天井材、壁、冷房機器

(2) 倒壊・転倒による危険物

戸棚、本棚、ロッカー、掃除用具入れ、オルガン、ピアノ、集団補聴器、OHP機器

(3) 落下倒壊による火災発生の恐れがある物(二次災害をまねく恐れがある物)

暖房器具、理科の薬品類、ガスコンロ、アルコールランプ、プロパンガス

(4) 転倒による危険物

実験時の薬品、ガス、暖房器具、アルコールランプ、プロパンガス、調理実習時の沸騰している湯、調理材料、学校給食施設関係器具用具

(5) ガス管の破裂、ガスコンロからの引火、爆発

(6) 移動による危険物、教卓、机、車椅子

(7) 不安や恐怖による心理的動揺からの混乱

2 初期行動・避難行動

- (1) 指導者の指示に忠実に従うこと。
- (2) 窓や壁際から離れること。
- (3) 身近にあるもので頭を守ること。
- (4) 「押さない」「慌てない」「騒がない」
- (5) 避難行動中は手には何も持たないこと。
- (6) 避難場所では、整列点呼後静かに待つこと

3 教職員の指示と行動

- (1) 児童等に対し、大きな声で対処すべき適切な指示をすること。
また、心の安定を図る言葉をかけて、児童等の掌握に努めること。
- (2) 火気は消火できる場合は、素早く消火すること。
- (3) 火気の消火ができない場合は、揺れが小さくなってから、第一行為として処理すること。
- (4) 配慮を要する児童生徒等に対して適切に指示し、行動すること。
- (5) 薬品の始末も、火気の場合と同様に処理すること。
- (6) 避難場所が安全か否か判断すること。

イ 休憩時間中に地震が発生したとき

主 題 名	休憩時間中に地震が発生したとき	
主題設定の理由	<p>児童等は、校内のあらゆる場所で活動しており、避難に際しては、個々の判断により行動することになり、大きな混乱が予想される。</p> <p>こうした事態を防止できるよう、地震発生時に自らの危険を予測し適切に対応できる実践力を育成するため、この主題を設定した。</p>	
指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の指示が徹底できない状況の中で、児童等自らが安全に行動できる方法を考えさせる。 ・日常の訓練をとおして、危険回避能力を身に付けさせる。 	
指 導 事 項	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
<p>地震のしくみ</p> <p>各場所における避難行動</p> <p>避難場所</p>	<p>1 地震のしくみや被害の特徴について理解する。</p> <p>(1) 地震について正しい知識を持つ</p> <p>(2) 地震の用語を理解する。</p> <p>2 校内の危険箇所チェック表と見取り図を作成する。</p> <p>3 休憩時に発生した時の適切な避難行動について話し合う。</p> <p>(1) 普通教室の場合</p> <p>(2) 特別教室・体育館の場合</p> <p>(3) 廊下・階段・便所の場合</p> <p>(4) 校舎外(運動場・中庭等)の場合</p> <p>4 避難行動における注意点について話し合う。</p> <p>(1) 危険物から遠ざかる。</p> <p>(2) 慌てず、騒がず、敏速に行動する。</p> <p>(3) 頭部を保護しながら避難する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のしくみを理解させ、的確な判断のもとに行動できる能力を身につけさせる。 ・児童等の発達段階に応じて指導する。 ・場所ごとに予想される危険を整理し、適切な避難方法について理解させる ・勝手な行動や不注意が大きな事故につながることを理解させる。 ・近くに教職員がいるときは、必ず教職員の指示に従うべきであることを理解させる。 ・放送設備が使用できない場合についての避難行動等についても指導しておく。
評 価	<p>1 地震のしくみについて、正しく理解できたか。</p> <p>2 各場所での予想される危険を理解できたか。</p> <p>3 適切な避難行動について、理解できたか。</p>	

1 予想される状況

(1) 校舎内

- ① 蛍光灯、時計、窓ガラス等が割れたり、飛散したりすることがある。
- ② 教室、便所等のドアが開かなくなることがある。
- ③ 体育館では、蛍光灯、窓ガラス等の落下・飛散や運動器具の倒壊がおこることがある。
- ④ 廊下では、窓ガラスが飛散し、下足室では、下足ロッカーの倒壊、窓ガラスの飛散がおこることがある。
- ⑤ 理科室等の実験室では、薬品の落下によるガスの発生、発火が起こることがある。
- ⑥ 暖房器具の転倒などによって火災が発生することがある。
- ⑦ 調理室ではガス管の破裂やガスコンロからのガス漏れがおこることがある。

(2) 校舎外

- ① 建物付近では、窓ガラスの落下がおこることがある。
- ② 塀、バックネット、遊具等の倒壊がおこることがある。
- ③ 立地条件によっては、地割れ、浸水、崖崩れ等がおこることがある。
- ④ 埋立地や軟弱な地盤にある学校では、液状化現象により、泥水が噴き出したり、地割れが生じたりすることもある。
- ⑤ 運動場が地域の避難場所に指定されている場合、保護者、避難してきた住民などにより混乱がおこることがある。

2 初期行動・避難行動

- (1) 校内放送、その他教職員の通報を静かに最後まで聞き、指示に従うこと。
- (2) 体育館では、落下物や運動器具の倒壊に注意し、中央部に集まり、天井部分等の損壊状況により、速やかに出口に移動すること。
- (3) 運動場では、速やかに中央部に集合し、指示を待つこと。
- (4) 校舎と校舎の間では、落下物に注意して運動場、広い空き地に移動すること。
- (5) 校外に出たり、校舎内に戻ったりしないこと。

3 教職員の指示と行動

- (1) 放送（使用できない場合は、ハンドマイク、メガホン）で避難場所及び避難方法を大きな声で適切に指示すること。
- (2) できるだけ早く分担した教室（校舎）等に直行し、児童等を掌握し避難・誘導すること。
- (3) 負傷者の有無を確認すること。

ウ 登下校中に地震が発生したとき

主 題 名	登 下 校 中 に 地 震 が 発 生 し た と き	
主題設定の理由	登下校中に地震が発生したとき、児童等はそのまま登校するのか、家へ帰るのか、または避難場所へ行くのかを的確に判断し、安全を確保しながら迅速な避難行動をとらなければならない。このような能力を身に付けさせることを目的として、本主題を設定した。	
指導のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路の危険が予測できる能力を身に付けさせる。 ・通学路の危険に適切に対処する能力を身に付けさせる。 ・地震に遭遇した場所から安全な場所まで、主体的に行動できる能力を身につけさせる。 	
指 導 事 項	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
危 険 予 測	1 登下校中で地震が発生したときの危険予測について、具体的な場所を想定して、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・写真、ハザードマップ、イラスト等の資料を活用するとともに、可能な限り現地へ出向かせる。 ・身近なもので頭部等を守る方法を考えさせる。 ・単独行動は、危険であることに気づかせる。 ・避難場所の広さ・位置や、避難場所までの経路について話し合わせる。 ・地図等により避難場所や経路について、具体的に確認させる。 ・家族と避難経路や避難場所について話し合うようにする。
	(1) 落下物があったり、建物が倒壊したりしている場合	
	(2) 道路の陥没、亀裂等が発生している場合	
	(3) 通学路上で火災が発生している場合	
安 全 行 動	2 危険場所での対処法を考える。	
	(1) 低い姿勢で頭部を覆う。	
	(2) 倒壊・火災現場から遠ざかる。	
	(3) 2次災害の危険を推察する。	
避 難 場 所 ・ 経 路	3 危険があるときは、どこへ避難すべきべきか話し合う。	
	(1) より高い場所・公園	
	(2) 校内の運動場	
家 族 での 確 認	4 避難経路について話し合う。	
	(1) 落下物や倒壊物	
	(2) 道の広さ	
評 価	○ 具体的な想定場所での危険予測、安全な避難行動や避難場所及び避難経路を考えることができたか。	

登下校中、児童等は指導者が不在のため、どうしてよいか迷ったり、デマ等に惑わされたりして危険な行動をとることが多分に予想され、パニック等のきっかけとなることがある。

したがって、地震に遭遇した場合の安全な行動の方法については、時間をかけて指導しておかなければならない。

登下校中に、地震にあった場合は、よく周囲の状況を確認して、倒壊物、窓ガラス等の落下物に注意しながら、素早く安全な広い場所に避難する。急斜面は余震により崩壊する恐れがあるため、できるだけ近づかない。

また、広い場所にいるときは、慌てて行動しないことが大切である。

1 予想される状況

- (1) 建物、塀、煙突、電柱が倒れたり、電線が垂れ下がることもある。
- (2) 窓ガラス、瓦、建物の外壁、看板等が落下したり飛散したりすることがある。
- (3) 橋、歩道橋が破損したり、落下したりすることがある。
- (4) 道路が地割れしたり、都市ガスやプロパンガスが漏れたりすることがある。
- (5) 沿岸地域では、津波、山間部では崖崩れ、山津波が発生することがある。
- (6) 埋立地、地盤が軟弱な場所では、液状化現象が発生することがある。
- (7) 電車やバスは脱線、転覆することがある。

2 初期行動・避難行動

- (1) ランドセル、カバンなどを頭にのせ、ガラスなどの飛散物、落下物から身を守ること。
- (2) 海岸、川岸、崖下から早く遠ざかること。
- (3) 乗り物に乗車中は、運転手等関係者の指示に従うこと。
- (4) ブロック塀から遠ざかること。
- (5) ガソリンスタンドや薬品工場から遠ざかること。

3 安否確認方法

たとえば、通学路上に児童等と学校、保護者により確認した公園等の避難場所を設定しておくこと、教職員、保護者の巡回による児童等の確認が容易である。

- (1) 登下校中に地震に遭遇した場合は、原則的には学校、通学路上の避難場所、家庭の三つの中で、距離的、時間的に最も近いところに避難するなどの指導をしておくこと。
- (2) 保護者が不在の場合も考えられるので、その対応についても指導しておくことが必要である。
- (3) 災害伝言ダイヤル「171」を活用する。

(2) 避難訓練の指導展開例

ア 実施日 平成〇年〇月〇日 () 午後〇〇時～

イ 災害の想定 午後〇〇時に強い地震が発生し、二次災害として〇〇〇より出火。

ウ ねらい

- ① 地震、火災発生時の基本行動を理解し、的確に対処できる態度や能力を身に付ける。
- ② 教職員の指示を最後までしっかり聞き、安全に避難できるようにする。

エ 指導内容

- ① 事前指導 (学級活動, ホームルーム活動 15分～20分の取り扱い)

内 容	留 意 点
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 避難訓練の予告 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 過去の避難訓練を振り返り、問題点について点検させる。
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 非常ベルが鳴ったり、緊急放送があったりした場合の行動の仕方等について話し合わせる。 <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路の確認 ・集合場所 ・行動の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地震発生時の行動について話し合わせる。 ◎ 緊急地震速報が流れたときの対応についても確認する。
<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地震発生時の基本行動様式について説明し確認させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・机の下に潜る。 ・火を使っている場合は直ちに消火する。 ・出入口の確保をする。 ・頭部を保護し、索早く避難する。 ・避難する場合は、「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」を徹底する。 ・火災が発生している場合は、鼻、口をハンカチ等で覆う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 地震の危険度や二次災害としての火災発生等について理解させる。 ◎ 教職員の姿勢 <ul style="list-style-type: none"> ・毅然とした態度で基本行動の重要性について説明する。

※児童生徒等に、緊急地震速報のしくみと有効性を確認するとともに、緊急地震速報が流れてからの避難訓練を実施する。

② 避難訓練（強震＋津波を想定した内容）

内 容	教師の指示・措置	留 意 点
<p>◎緊急地震速報 発令</p> <p>◎地震発生</p>	<p>◎ 緊急地震速報が受信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地震発生。すぐに机の下に潜れ」 ・「頭を守れ」 <p>◎ 指示例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大丈夫か、静かに、落ち着け。」 ・「外へ出るな」 ・「机の下へ潜れ」 ・「座布団をかぶれ」 	<p>※緊急地震速報の設置されている学校においては、緊急地震速報を活用する。</p> <p>◎ 大声で明確に指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沈着、冷静に指示し、児童等の行動を掌握する。 ・頭部の安全を図らせる。 ・窓際、ロッカー付近の児童生徒等は頭部を反対方向に向けさせ、離れさせる。
<p>◎避難・誘導</p>	<p>◎ 指示後の措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火の始末。電源を切る。ガスの元栓を閉める。 ・窓やドアを開け、出口の確保をする。 <p>◎ 校内放送の避難指示に従い、避難を開始する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「落ち着いて机の下から出なさい。」 ・「大丈夫ですか。けがをした人はいませんか。」 ・「今から避難しますので、並んで先生の後ろについてきなさい。」 	<p>◎ 小学校低学年の場合は、指示と心の安定を図るための言葉がけをする。</p> <p>◎ 避難方法、避難場所を明確に指示する。</p> <p>◎ 負傷者がいないか、確認する。</p> <p>◎ 隣接学級と協力しながら安全に避難させる。</p>
<p>◎人員確認</p>	<p>◎ 「〇年〇組はここに並びなさい。静かに座って指示を待ちなさい。」</p> <p>◎ 本部の次の行動指示があるまで待機する。</p>	<p>◎ 児童生徒等を落ち着かせ、素早く人員確認をし、学年でまとめて、本部に報告する。負傷者のある場合は併せて報告する。</p>

③ 事後指導（学級活動，ホームルーム活動 15分～20分の取り扱い）

内 容	留 意 点
<p>◎ 自教室に戻り，避難訓練実施後の内容について話し合わせる。（自己点検カード等の活用）</p> <p>◎ 指示どおりできなかった内容，問題となる行動などについて確認し，練習の機会を設定する。</p>	<p>◎ 児童等の反省点，意見，感想などをまとめる。</p>

（3）評 価

訓練実施後，以下の内容について評価し，不備な点については改善を図ることが大切である。

- ① 避難訓練の目的が理解でき，児童等一人一人が真剣な態度で適切な行動がとれたか。
- ② 基本的な行動の仕方が理解でき，統一的行動がとれたか。
- ③ その他の評価の視点
 - ア 本部からの指示内容が正確に，迅速に伝わったか。
 - イ 避難経路は適切であったか。
 - ウ 避難の誘導は適切であったか。
 - エ 避難集合場所での整列，人員確保，報告などが正確にできたか。

大地震のときの心得

- **テーブルや机の下に身をかくし あわてて外へ飛び出さな**
家のなかにいるときに大きな揺れを感じたら、まず丈夫なテーブルや机の下に隠れて身の安全を確保し、あわてて外に飛び出さない。
- **大地震1分過ぎたらまず安心**
地震の揺れは長くても1分過ぎたらおさまる。火の始末はやけどをしないように落ち着いておこなう。
- **テレビやラジオをつけて 地震の情報を**
地震が起きたら、テレビやラジオをつけて気象台等が発表する津波警報・注意報や地震・津波に関する情報を入手する。
- **海岸でグラツときたら 高台へ**
海岸にいるときに大きな揺れや長い時間ゆっくりとした揺れを感じたら、津波の恐れがあるので直ちに高台へ避難する。
- **近づくな 自動販売機やビルのそば**
野外で大きな揺れを感じたら、看板の落下、ビルの窓から割れたガラスの落下、ブロック塀や自動販売機などの倒壊に注意する。
- **気をつけよ 山崩れと崖崩れ**
切り立った崖のそばや地盤の軟弱な傾斜地などで大きな揺れを感じたら、山崩れ、崖崩れの恐れがあるので注意する。
- **避難は徒歩で 荷物は最小限に**
車での避難は、渋滞に見舞われ防災活動や避難の妨げとなる恐れがあるので、持ち物は最小限にして徒歩で避難する。
- **余震が起きてもあわてずに 正しい情報に従って行動を**
大地震のあと、余震がしばらく続く場合があるので注意する。また、災害時には、未確認の情報がデマとなり混乱を招く場合があるので、正しい情報を入手して行動するようにする。
- **不意の地震に、日頃の用意**
地震は突然襲ってくる。常日頃から避難方法・場所や医療機関などを確認しておく。また、携帯ラジオ、懐中電灯などの防災用品を普段から用意し点検しておく。



津波に対する心得

1. 強い地震（震度4程度以上）を感じたとき、又は弱い地震であっても長い時間ゆっくりとした揺れを感じたときは、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難。
2. 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときには、直ちに海浜から離れ、急いで安全な場所に避難。
3. 正しい情報をラジオ、テレビ、広報車などを通じて入手。
4. 津波注意報でも、海水浴や磯釣りは危険なので行わない。
5. 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報解除まで気をゆるめない。



4 緊急地震速報（警報）について

気象庁は平成19年10月1日から、緊急地震速報（警報）の発表を開始しました。緊急地震速報（警報）の発表条件・内容については次の通りです。

（1）緊急地震速報（警報）を発表する条件

- ・地震波が2点以上の地震観測点で観測され、最大震度が5弱以上と予測された場合に発表する。
- ・緊急地震速報（警報）の発表条件は、2点以上の地震観測点で地震波が観測され、最大震度が5弱以上と予測された場合です。

（2）緊急地震速報（警報）の内容

地震の発生時刻、発生場所（震源）の推定値、地震発生場所の震央地名強い揺れ（震度5弱以上）が予測される地域及び震度4が予測される地域名（全国を約200地域に分割）発表する内容は、地震が発生した場所や、震度4以上の揺れが予測された地域名称などです。

（3）緊急地震速報を活用した避難訓練

地震はいつ起きるか分からないことから、どのような場所において強い揺れにあうかもわかりません。緊急地震速報は、地震の発生後、強く揺れる前に揺れが来ることを伝えることを目標とする情報ですが、速報が発表されてから対象となる地域が強く揺れるまではわずかな時間（数秒～数十秒）しかありません。

しかし、そのわずかな時間を有効に使うことで地震の揺れから身を守ることができます。そのためには、地震が発生した場所や状況に合わせてあわてずに行動する必要があります。あわてずに身を守る行動を起こすためには、その場その時に合わせてどのような行動を取るべきかをあらかじめ知り、行動している自分を想像しておくことが大切です。また、その想像をもとに実際に行動をとり経験、つまり緊急地震速報を活用した避難訓練を繰り返し実施することが重要です。

なお、緊急地震速報が発表されたことが即座にわかるよう、テレビやラジオ、携帯電話などでは、専用の音（報知音）と共に緊急地震速報を知らせています。テレビやラジオなどでの放送内容や携帯電話で着信した内容を確認していると、強い揺れへの備えが遅れてしまいますが、この報知音を覚えておくことで、緊急地震速報が発表されたときに、とっさに身を守る行動がとれるようになり、緊急地震速報をより有効に利用できるようになります。

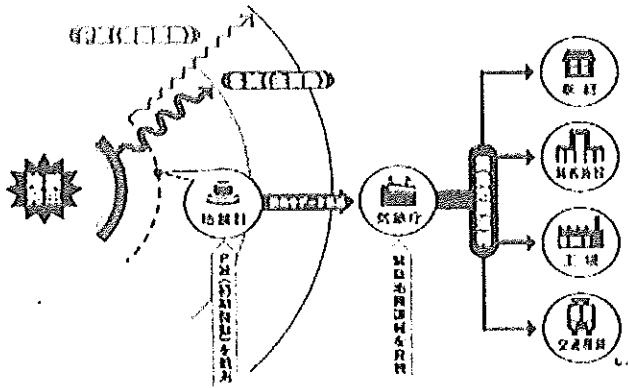
報知音の主なものには、テレビやラジオ、防災行政無線、受信端末などで使用されている「チャイム音」と、携帯電話会社（NTTドコモ、au（KDDI）、ソフトバンク）共通の専用の「ブザー音」があります。「チャイム音」はNHKが、「ブザー音」はNTTドコモが、緊急地震速報に確実に気づいてもらうために開発したもので、それぞれ、NHKとNTTドコモのホームページで試聴することができます。

（4）津波警報の改善について

気象庁では、平成23年東北地方太平洋沖地震での甚大な津波被害を受け、津波警報・注意報の発表方法や表現を変更し、平成25年3月7日から新しい津波警報の運用を開始します。新しい津波警報では、マグニチュード8を超えるような巨大地震による津波に対しても適切な警報を発表するとともに、簡潔な表現で避難を促します。「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます。巨大地震が発生した場合は、最初の津波警報（第一報）では、予想される津波の高さを、「巨大」、「高い」という言葉で発表して非常事態である

ことを伝えます。「巨大」という言葉で津波警報が発表された時は、東日本大震災クラスの非常事態であるため、ただちにできる限り高いところへ避難してください。

緊急地震速報のしくみ



- 震源近くで地震波(P波、初期微動)をキャッチし、震源や規模、予想される揺れの強さ(震度)等を自動計算
- 地震による強い揺れ(S波、主要動)が始まる前に素早くお知らせ
- 時間経過とともに精度がよくなる緊急地震速報(予報)を繰り返し発表

緊急地震速報は、どうやって聞くことができるの？



テレビ・ラジオ

● テレビやラジオ*1を視聴している時に、報知音*2とともに放送されます



携帯電話

● 緊急地震速報を受信し、報知音*2で知らせる携帯電話*3があります



防災行政無線

● 市町村*1の防災行政無線から報知音*2とともに放送されます



受信端末*3

● 受信端末*3などでは、気象庁が発表する警報や予報のほか、独自に個別地点の震度などを予想し、報知します

*1 厚田のあった放送局や町町村(全国同時放送システム(J-ALERT))を利用した放送が開始されています
 *2 緊急地震速報専用の報知音があります。目を覚まして、その音を聞いたらとっさに身を守る行動をとれるようにしましょう
 *3 緊急地震速報を受信し、音声報知音や発報の制御を行うための装置

緊急地震速報の音は、どういう時に鳴るの？

- 緊急地震速報は、地震により予想される震度が5弱を超えた時に発表され、テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話端末で報知音が鳴ります
- 受信端末などでは、利用者が独自に設定した基準を、予想される震度を超えた時に報知音が鳴ります

★ 余震が多く発生している時など緊急地震速報を適切に発表できないことがあります。速報が発表される時にはどこかで地震が発生していますので、身を守る行動をとって強い揺れに備えて下さい
 ★ また、速報が発表されていなくても、地震の揺れを感じた時は身を守る行動をとって下さい

- 震源に近い地域では速報の発表が強い揺れに間に合いません
- 速報の発表が遅れたり発表できないことがあります
- 予想する震度は±1程度の誤差を伴います
- 地震活動が活発なときなど、ほぼ同時に発生する複数の地震を区別できず、適切な内容で速報を発表できないことがあります

気象庁が、国民のみならず受信端末の設置を義務づけたり、直接設置に伺ったりすることはありません！

● 緊急地震速報は、日本気象協会気象研究所と気象庁による共同研究開発と、自治体法人防災科学技術研究所による技術開発の結果により可能となりました



【お問い合わせ先】
気象庁 地震火山部管理課
 〒100-8122 東京都千代田区人形町1丁目3番4号
 電話：(03)3212-8341(代表)
 FAX：(03)0080-2017(写の不自由の方のみ)
<http://www.jma.go.jp/>

詳しくは

☎ [気象庁 緊急地震速報] [検索]

このリーフレットは、印刷用の紙へソリサイクルです。